

文化芸術資源を活用した経済活性化 （文化GDPの拡大）

平成28年4月13日
文 化 庁

文化芸術資源を活用した経済活性化(文化GDPの拡大)について

1. 概要

文化芸術は、観光地の魅力や産業の付加価値などを生み出す源。
文化芸術への投資は、他の様々な産業分野への経済波及効果を生み出す。

全国に存在する我が国の多様な文化芸術資源を一層活用することにより、GDP600兆円の達成に貢献する経済波及効果を生み出す。

文化芸術資源の活用による
様々な産業分野への波及効果の拡大



文化産業の経済規模(文化GDP)の拡大

※数字は入手可能な資料(産業連関表、経済センサス)を基に、文化関連のものについて文化庁において抽出・試算したもの。

業種	GDP(2011年)	
	(億円)	%
映像・音声・文字情報制作業 (映画・ビデオ・テレビジョン番組・アニメーション制作業など)	11,663	21.7%
個人教授業 (音楽・書道・生け花・茶道教授業など)	7,505	14.0%
出版	6,326	11.8%
新聞	5,899	11.0%
その他 (劇場、楽団、博物館、美術館など)	22,411	41.7%
合計	53,804	100.0%

総GDPの1.2%(諸外国は3~4%)

我が国の多様な文化芸術資源を考えれば伸びしろのある分野

他産業への経済波及効果の創出

「国民文化祭・あきた2014」の例

観光客および出演者の消費支出による効果

	日帰り客	宿泊客
宿泊費	—	8.0億円
飲食費	4.3億円	4.2億円
土産費	16.1億円	10.8億円
交通費	11.8億円	10.5億円
入場料	2.2億円	1.0億円
その他	2.3億円	2.2億円
計	36.8億円	36.5億円

文化産業以外
への波及

73.3億円

※全体の経済波及
効果は134億円

- ・文化芸術資源の活用は、他の産業や地域経済へ波及効果をもたらす
- ・国内の芸術祭等の文化事業は年間約200件以上あり、それぞれを磨き上げるにより、より大きな波及効果を生み出す

2. 取組の方向性

以下の方向性1～3により、スポーツ・文化・観光の3庁連携をはじめとして関係省庁とも協働しつつ、文化産業・文化芸術活動の活性化による文化GDPの拡大、訪日外国人4,000万人への貢献等による他産業や地域経済への波及効果の創出する。

方向性1: インバウンドの増加・地域の活力の創出

地方創生に資する地域の文化芸術資源の掘り起こし

- ・芸術祭などの文化芸術活動や食文化を含めた「くらしの文化」などの文化芸術資源を掘り起こし、地域活性化へつなげる文化プログラムの全国展開・推奨と国内外への発信
- ・官民協働による現代アート拠点や文化観光・産業活性化コンソーシアムの形成とその活動を支える人材育成

文化芸術の創造への支援と海外への発信

- ・「日本の美」総合プロジェクト懇談会の議論をもとに、一過性に終わらない、高い経済効果の創出と人材育成を重視した、息の長い支援を行い、「文化GDP拠点」を集中的・計画的に形成。2020年国内での「日本博」での全面的な開花を目指す。
- ・世界に誇るマンガ・アニメ・ゲームなどのメディア芸術分野の人材育成・アーカイブ化・海外発信の推進

数値目標: 2020年までに全国の20万件の文化プログラムを海外へ発信

2030年までに文化芸術クラスター10拠点形成・プロデューサー人材100人育成

○ 国際的な芸術祭の開催

■ 瀬戸内国際芸術祭2013



(撮影:中村脩氏)

- ・美しい瀬戸内海を船で巡りながら、島の自然や文化に溶け込んだアートを体感する現代アートの祭典。
- ・26の国と地域から200組のアーティストが参加。多言語対応(英・仏・中・韓)
- ・直島町では、首都圏から若い世代が移住し、年2%強の人口減少率が1%程度にまで改善しており、下げ止まり傾向が見られる。
- ・来場者数 約107万人、経済波及効果 約132億円(事業費 約10.2億円)

■ 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2012 (新潟県十日町市)



- ・里山を舞台とする地域内外のアーティストによる作品制作・展示や地域住民との交流、アートをテーマにした様々なイベントを行う芸術祭。
- ・44の国と地域から310組のアーティストが参加。多言語対応(英・中・韓)
- ・来場者数 約49万人、経済波及効果 約46億5千万円(事業費 約4.9億円)

○ 羽田空港跡地を活用した現代アート拠点

- ・世界最高水準の美術修復、梱包・運搬、展示業者などの美術関連技術を集積。最先端技術とアートの融合プロジェクトの実施など。
- ・アジアを中心とした外国人富裕層の開拓により、新たな短期滞在需要を喚起。訪日外国人一人当たりの単価(経済効果)の向上。
- ・公主体の手法ではなく、民間や自治体が主体となって行う取組を国が支援。



○ 文化庁メディア芸術祭・日本映画の製作支援

■ メディア芸術祭

世界86の国と地域から4,417点(うち、海外から半数を超える2,216点)の作品応募(第19回)昨年の受賞作品展には51,153人が来場

■ 日本映画の製作支援

- ・「超高速! 参勤交代」 興行収入 15.5億円
- ・「小さいうち」 興行収入 12.6億円

(文化庁より2千万円製作支援 平成26年度)



方向性2:文化芸術における潜在的顧客・担い手の開拓

多様性を包容する文化の力を活用、障害者、外国人等、あらゆる人々が活躍する場を創出し、文化芸術活動の裾野を拡大。

- ・児童生徒、親子、障害者、高齢者等を対象としたコミュニケーションワークショップなどの社会包摂プログラムの全国展開
- ・障害のあるアーティストの優れた文化芸術活動の支援

数値目標: 2030年までにすべての都道府県でワークショップ等の取組を実施



○文化芸術を活用した社会包摂プログラム

可児市文化創造センター

- ・年間約30万人が来館。地域のにぎわい創出に貢献。
- ・文化芸術を活用して、子育て支援、高齢者の生きがいづくり、多文化共生などの地域課題に取り組む「まち元気プロジェクト」を展開。ワークショップを実施し、コミュニティの形成に寄与。
- ・県立高校において自己表現力とコミュニケーション能力の養成を目的としたワークショップを実施。中途退学者が約3分の1となり、新入生の定員割れも解消。

高齢者のWS



○障害者のアート活動

埼玉県立近代美術館「すごいぞ、これは！」展

- ・全国の調査研究員と事務局の埼玉県立近代美術館の館長・学芸員、あわせて12人が、アーティストをそれぞれ1名推薦する形式により作品を展示
- ・北海道、高知、広島で巡回展を開催

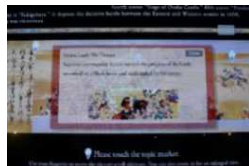
方向性3:「文化財で稼ぐ」力の土台の形成

「文化財活用・理解促進戦略プログラム2020」(仮称)を年内に策定し、「地域の文化財を一体的に活用する取組への支援」等を通じて、「文化財」を観光資源として開花させる。

- ・文化財の解説の多言語化等を通じた、我が国の文化・歴史を体現する文化財の価値・魅力の効果的発信
- ・文化財の適切なサイクルによる修理、建造物等の美装化、文化施設の機能強化による雇用創出とともに観光客を魅了する環境の充実 等

数値目標: 2020年までに日本遺産をはじめ、文化財を中核とする多様な「稼ぎ方」を可能とする観光拠点を全国200拠点程度整備

○わかりやすい解説と多言語対応



日光東照宮新宝物館

- ・東照宮の歴史や徳川家康の生涯をビデオ等で上映し、英語テロップを用いてわかりやすく解説
- ・絵巻など展示品をデジタル化し、画面タッチにより、日英の解説を表示

○歴史的建造物の活用促進

西日本工業倶楽部会館

国指定重要文化財を結婚式場等に活用



○投資リターンを見据えた文化財修理・整備の拡充と美装化

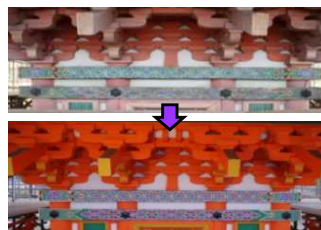
姫路城天守の大規模改修

- ・総事業費30億円
 - ・観覧料収入
- 2.9億円(H26)→
18.7億円(H27)

修理中もガイダンス施設を設置



美装化



○文化財を中核とする観光拠点の整備

大内宿の茅葺き民家群再生(福島県)

- ・地域の文化財の一体的整備を計画的に行い、観光中心の産業構造へ転換
- ・観光客数は20年間で約100万人増加
- ・収益が修理につながる循環型の文化財保存・活用事業の継続、地元技術者の育成



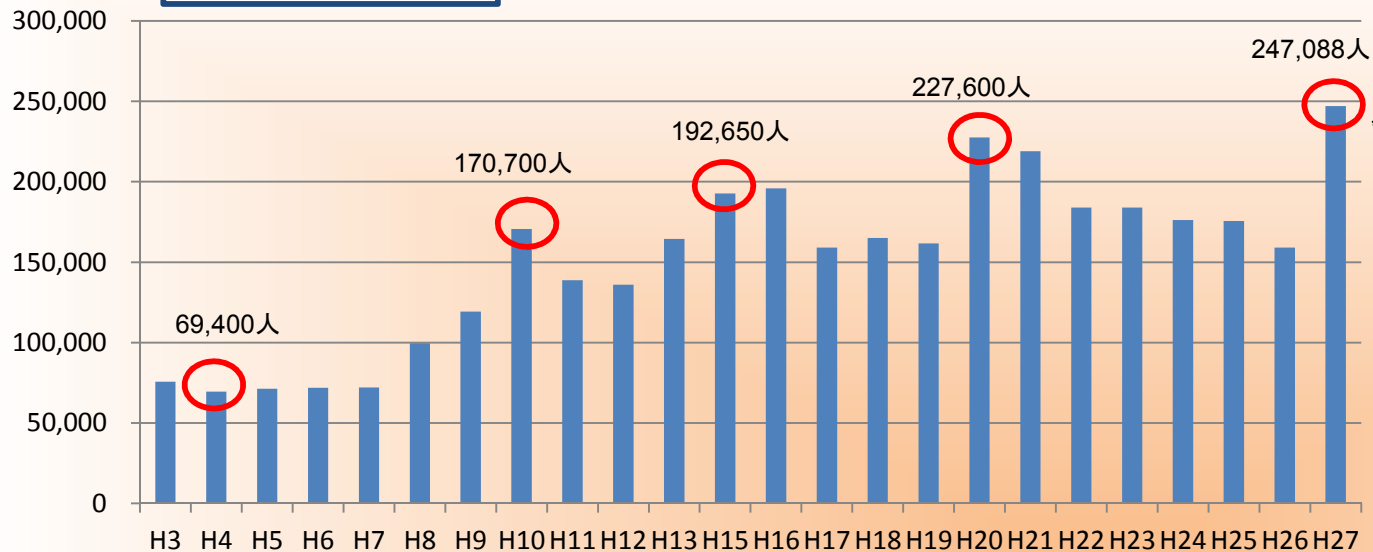
文化資源を活用した経済活性化(文化GDPの拡大)

～参考事例集～

参考事例① ～保存修理事業等による観光効果～

● 瑞龍寺（富山県高岡市）では、**平成8年度に保存修理事業が完了し、平成9年に仏堂、法堂、山門が国宝に指定。**
ライトアップ事業等も展開し、北陸新幹線が開通したH27年には過去最高の約25万人を記録。

拝観者数の推移



- 【H8】 保存修理工事完了
- 【H9】 仏殿、法堂、山門の国宝指定
- 【H14】 NHK大河ドラマ「利家とまつ」の放映
- 【H19】 ライトアップ開始
- 【H20】 東海北陸自動車道全線開通
- 【H21】 高岡開町400周年
- 【H27】 北陸新幹線開通

修理前



修理後（平成8年）



【保存修理事業概要】

総事業費：1,987百万円
 国庫補助額：1,334百万円
 事業期間：S60年10月
 ～ H8年12月



2015年には「The Wonder500運営事務局」主催「第32回伝統的工芸品月間国民会議全国大会」の会場として大茶堂・回廊を利用。

参考事例② ～大遷宮に合わせた計画的な修理による経済波及効果～

- 出雲大社では、平成25年の「平成の大遷宮」にあわせ、本殿（国宝）をはじめ各種施設について**平成20年度から計画的に保存修理事業を実施**。観光客増加（H24：2919万人→H25：3674万人）による**島根県内への経済波及効果は344億円**に達したと試算されている。



▲ 本殿 素屋根の解体

【本殿の修理内容】
屋根葺替・部分修理

指定：昭和27年
建立：延享元年（1744）
修理期間：平成20年12月～25年2月

年度	事業費	国庫補助額
H20年度	4.7億円	3.1億円
H21年度	5.0億円	3.3億円
H22年度	5.0億円	3.3億円
H23年度	5.0億円	3.3億円
H24年度	5.8億円	3.8億円
H25年度	2.6億円	1.7億円
H26年度	2.6億円	1.7億円
計（～H29年度）	38.0億円	24.7億円

65%
国庫
補助



▲ 本殿 竣工

- ✓ 県内への経済波及効果：344億円
- ✓ 県民の雇用者所得増加：113億円
- ✓ 新規雇用創出効果：約3500人

参考事例③ ～御柱祭の効果の持続・発展のための保存修理～

- 諏訪大社では、平成22年の御柱祭による^{おんばしらい}観光消費額約171億円・経済波及効果約216億円といった効果を持続し、さらに発展したものとするため、平成24年度から主要施設の保存修理に取り組んでいる。



▲ 諏訪大社御柱祭

平成22年諏訪大社御柱祭の効果

- ✓ 観光消費額：171億1600万円（H16：160億円）
- ✓ 経済波及効果：215億円6000万円
- ✓ 総動員数：169万3000人（H16：約160万人）

（「平成22年10月29日長野日報（諏訪広域連合調査結果引用）」による）

この効果を持続し、発展させるため、平成24年度から国庫補助で本宮幣殿・拝殿等の修理を実施。

諏訪大社上社

本宮幣殿、本宮拝殿、本宮左右片拝殿（二棟）、本宮脇片拝殿、本宮四脚門

所在地：長野県諏訪市大字中洲

建築年代：幣殿・左右片拝殿・脇片拝殿：

天保6年（1835）〔文書、槌〕

四脚門：慶長13年（1608）

拝殿：安政4年（1857）

指定：昭和58年12月26日

保存修理：平成24年12月～平成27年5月

年度	事業費	国庫補助額
H24～26年度	1.9億円	1.0億円
計（～H27年度）	2.1億円	1.1億円

55%
国庫
補助



▲ 幣殿解体状況

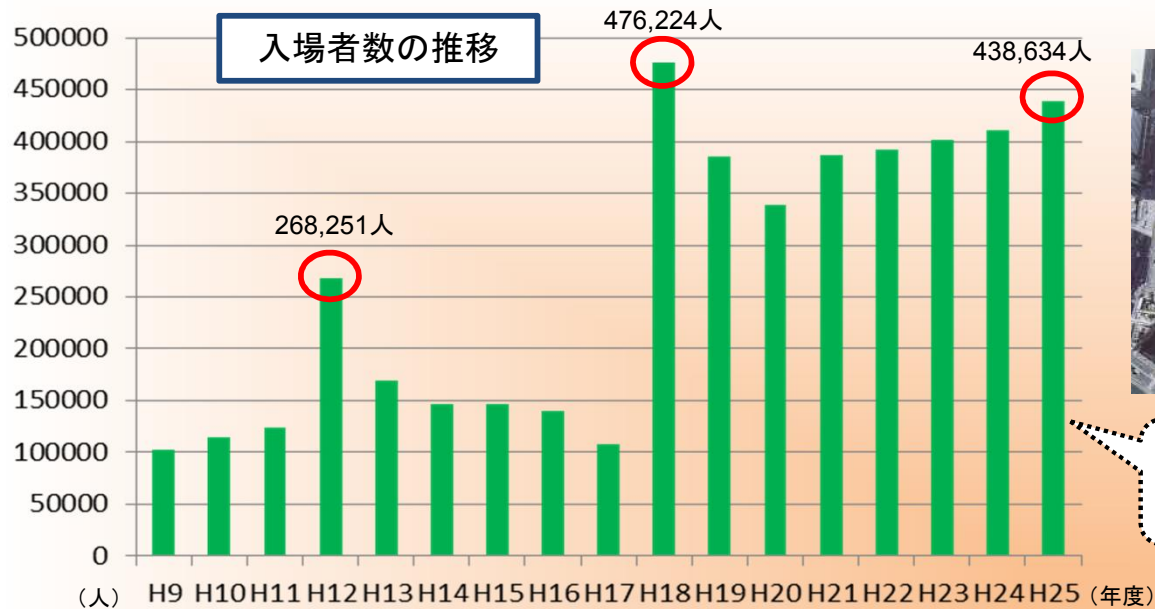


▲ 拝殿解体状況

参考事例④ ～史跡の復元整備による観光効果～

でじまおらんだしょうかんあと

- 出島和蘭商館跡（長崎県長崎市）では、**平成8年度からの復元整備事業により、入場者数が段階的に増加。ピークの平成18年度以降は一旦落ち込んだものの、市の意欲的な取組により再び増加を見せている。**



整備前(平成8年)



整備後(平成26年)



公有化・
整備の
実施

- 【H22】 NHK大河ドラマ「龍馬伝」の放映
- 【H24】 震災以降の修学旅行生の増加／クルーズ船の入港増加
- 【H25】 タブレット端末でCG再現／クレジット・電子マネーでの入場導入

【H12. 3】 第Ⅰ期工事が完成
江戸期の蔵を中心に復元。蔵の内部は発掘調査の成果が見れるような展示（ガラス張りの床など）、ガイダンス的要素を盛り込んでいる。



二番蔵(内部)

【H18. 3】 第Ⅱ期工事が完成
江戸期のカピタン（西洋の商館長）が住んでいた商館を中心に復元。建物の復元のみならず当時の生活様式も含めて可能な限り再現した。



カピタン部屋(内部)

【江戸時代後期の石倉を復元
→資料館に】



復元後の姿



【学校教育への活用】



【商館長の屋敷を復元
↓地域活動の拠点に】

(写真提供:長崎市)

参考事例⑤ ～まちなみの活用による観光客の増加～

- 福島県下郷町は、大内宿の重要伝統的建造物群保存地区への選定（昭和56年）も契機として、昔からのまちなみの再生や展示施設の整備、駐車場の整備などを進め、**従来の農業中心の産業から、観光産業への転換を実現**。その結果、**平成21年には観光客数が116万人と、昭和63年（11万人）の約10倍に**。

建物の修理再生により、昔ながらの町並みの魅力向上



保存修理事業
総額368,644千円
(国庫:215,609千円)

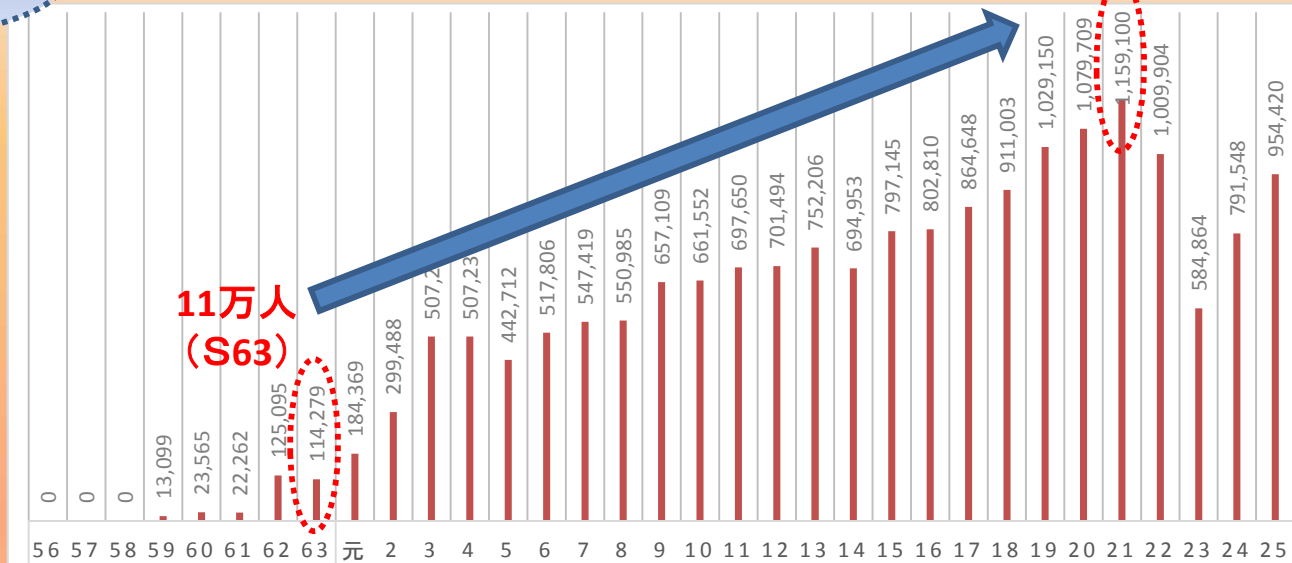


防災施設等事業
総額374,458千円
(国庫:242,161千円)

貯水槽や放水銃・ポンプの設置により、木造建築の多い宿場町を安心して観光

しもごうまちおおうちじゅく

【下郷町大内宿の観光客数の推移】 116万人(H21)



観光拠点の設置、案内による理解促進



展示施設整備(本陣復原)



無電柱化(電柱移設)

景観に配慮したまちづくり

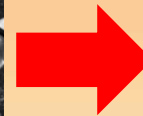


駐車場整備

アクセスの改善による観光促進、歩行者の安全確保



選定前の大内宿



現在の大内宿

参考事例⑥ 文化を中核とした経済活性化

瀬戸内国際芸術祭2013（香川県）

- ✓ 美しい瀬戸内海を船で巡りながら、島の自然や文化に溶け込んだアートを体感する現代アートの祭典。
- ✓ 3年ごとに国際芸術祭として開催（次回開催は平成28年3月20日～）
- ✓ 平成25年に開催された第2回となる国際芸術祭には、**26の国と地域から200組のアーティスト**が参加。**多言語対応（英・仏・中・韓）**
- ✓ 直島町では、首都圏から若い世代が移住し、**年2%強の人口減少率が1%程度にまで改善**しており、下げ止まり傾向が見られる。
- ✓ 開催期間は、春期3月20日～4月21日、夏期7月20日～9月1日、秋期10月5日～11月4日（計108日間）
- ✓ **来場者数は約107万人、約132億円の経済効果**（事業費約10.2億円）



瀬戸内国際芸術祭
（撮影：中村 脩）

大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2012（新潟県十日町市）

- ✓ 里山を舞台とする地域内外のアーティストによる作品制作・展示や地域住民との交流、アートをテーマにした様々なイベントを行う芸術祭。
- ✓ 平成24年に開催された第5回トリエンナーレには、**44の国と地域から310組のアーティスト**が参加。**多言語対応（英・中・韓）**
- ✓ 空き家や廃校にもアート作品を展示し、平成24年には約500軒ある空き家のうち 44軒を、また、20校ある廃校のうち11校を展示会場として活用。
- ✓ 開催期間は、7月29日～9月17日（51日間）
- ✓ **来場者数は約49万人に上り、約46億5千万円の経済効果**（事業費約4.9億円）



大地の芸術祭での作品展示

地球の祝祭「アース・セレブレーション」(佐渡市)

- ✓ **太鼓芸能集団「鼓童」による世界一の和太鼓公演**をメインとした野外フェスティバル。
- ✓ メイン公演である「城山コンサート」では、丘の上の豊かな自然に囲まれた野外空間で、大自然と太鼓の音がコラボレーションする。
- ✓ 開催期間は8月21日から23日（3日間）。
- ✓ **来場者数は約1万5千人（平成27年度）、約2億4千万円の経済効果（平成26年度）**
- ✓ **来場者のうち約10%の割合を外国人が占め、訪日する外国人にとっても魅力的な取組となっている。**



城山コンサート

大分県における地方創生

- ✓ 民間（BEPPU PROJECT）主導による創造都市の取組が進展。
- ✓ 産官学からなる委員会を設置し、芸術文化の振興はもとより、文化を活用して**少子高齢化や過疎化への対策、新商品・サービスの開発等、社会的、経済的な課題にも対応**することを目標。
- ✓ プロジェクトベースでは、**国東半島芸術祭、混浴温泉世界（アートイベント）**など様々な動きを加速。
- ✓ 多彩なアートプロジェクトは、文化振興のみならず、**地域・観光振興、産業、福祉、教育・人づくり、定住・移住促進など、様々な政策文化に効果を発揮し、地方創生に貢献。**

BEPPU PROJECT

- ✓ 世界有数の温泉地として知られる大分県別府市を活動拠点とする**アートNPO**。
国際芸術フェスティバルを開催することをマニフェストに掲げ、2005年4月に発足して以来、現代芸術の紹介や教育普及活動、人材育成講座や出版事業、市街地の空き店舗をリノベーションする事業など様々な事業を実施。

2014国東半島芸術祭

- ✓ 作品を巡るトレッキングやロングトレイルツアー、パフォーマンス公演、アーティストインレジデンスなどの多彩なアート体験を通じ、国東半島の流れる時間や魅力、場所と出会う「**旅としての芸術祭**」。
- ✓ 海岸線や山間部や集落などの国東半島の特徴的な6エリアを、**オノ・ヨーコ氏等27名のアーティスト**が作品化。
- ✓ 開催期間は、10月4日～11月30日（58日間）
- ✓ 来場者数は約6万人、約2億8千万円の経済効果



広島メディア芸術推進事業(広島国際アニメーションフェスティバル及びメディア芸術プロジェクト)(広島市)

- 広島国際アニメーションフェスティバル（8月21日～25日）
- ✓ **世界四大アニメーション映画祭の一つで、国際アニメーションフィルム協会公認映画祭**であり、コンペティション・上映会・ワークショップなどが開かれる総合的な映画祭。
- ✓ **コンペティションでは74ヶ国・地域から2,217本の応募。**
- ✓ **海外からも150人を超える作家・映像関係者がゲスト参加し、市民や学生との交流も図られた。**
- ✓ **来場者数は約23万人（応援イベント含む）、約3億3千万円の経済効果**



会場の様子

参考事例⑧ 海外における文化芸術の持つ創造性を活かした長期的な地域活性化

ポートランド市（アメリカ）

- ✓ オレゴン州最大の都市、人口約58万人、農業・林業からハイテク産業中心へ
- ✓ クリエイティブ・クラス（※）の出現に対応した街づくり（土地利用密度の高度化による都市のコンパクト化：20分都市の形成）
- ✓ 住居兼ギャラリーを低賃料で貸出すロフト文化により、若いアーティスト達が流入
- ✓ 若手クリエイターからエリート層、リタイア層に及ぶ多様性に富んだ居住者が移り住むことで、新しいコミュニティを形成（「First Thursday Gallery Walk」で観光客も取り込む）
- ✓ ハイテク産業のみならず、スポーツ、観光・サービス産業等の繁栄により全国第2位の成長率（全国平均1.5%をはるかにしのぐ4.7%）



First Thursday Gallery Walkの賑わい

ナント市（フランス）

- ✓ フランス6番目の大都市 人口29万人 50年代には造船所をはじめ多くの工場が建設。60年代には失業率40% 89年に都市再生の柱として文化事業を公約に掲げたエロ-市長が当選後、市予算の15%（02年）を文化予算に充当
- ✓ ナント市の文化事業の受益人口は約80万人。市内文化施設や事業に近隣市町村も補助
- ✓ フランスでもっとも住みやすい都市 1位「住居」「娯楽」「安全」「教育」など12項目総合
- ✓ 80年代サービス産業従事者が市労働人口67%から00年には80%まで上昇。若者人口増加率も高く、文化施設や文化事業が充実しており、複数の企業本社がナント市に移転
- ✓ ラ・フォルジュルネなど文化フェスティバルを商品として海外へ売り込み文化産業を創出



ラ・フォルジュルネの様子

ビルバオ市（スペイン）

- ✓ スペイン5番目の大都市圏 人口40万人 60～70年代に重工業によって発展を遂げたが、70年代後半以降、伝統的な工業都市としての産業基盤が急速に衰退
- ✓ 88年よりグッゲンハイム美術館が多館戦略、国際戦略を推し進め、ビルバオ・グッゲンハイム美術館はその戦略とリンクする形で実現 バスク州政府は建設費（1億ドル）を全額負担し所有。また、運営予算の一部を補助。運営は州政府とグッゲンハイム財団。
- ✓ 00年に3,000人/日を超えた展覧会は世界で27件であり、うち7件が同美術館の展覧会。
- ✓ 97年開館後5年間の観客は515万人以上。海外から45%、スペインバスク州以外から35%
- ✓ バスク州公的セクターが95-98年投資額が20億€。7万6千人の雇用と50億€の経済波及効果



ビルバオ・グッゲンハイム美術館

可児市文化創造センター（岐阜県可児市）

- ✓ 人口10万人の可児市において年間約30万人が来館。地域のにぎわい創出に貢献。
- ✓ 文化芸術を活用して、子育て支援、高齢者の生きがいをづくり、多文化共生などの地域課題に取り組む「まち元気プロジェクト」を展開。公民館や福祉施設で実施する年間400回以上のワークショップには延べ7千人以上の市民が参加し、コミュニティの形成に寄与。
- ✓ 県立高校において自己表現力とコミュニケーション能力の養成を目的に演劇手法を活用したワークショップを実施。中途退学者が約3分の1となり、新入生の定員割れも解消。
- ✓ 経済効果：11.6億円
- ✓ 雇用効果（岐阜県内）：53人（平成21年度）



可児市文化創造センター



児童・生徒のWS



高齢者のWS



乳幼児と保護者のWS

さいたまゴールドシアター

- ✓ 彩の国さいたま芸術劇場芸術監督蜷川幸雄が率いる、55歳以上の団員による演劇集団。
- ✓ 2005年11月、当劇場芸術監督に内定した蜷川が、就任後第一に取り組むべき事業として「年齢を重ねた人々が、その個人史をベースに、身体表現という方法によって新しい自分に出会う場を提供する」ための集団作りを提案したことに始まる。
- ✓ 誰もが経験する“老い”を“演劇”に昇華させようと、プロの俳優とは異なる独自の創造性を発揮し、また、演劇界の枠を越え、日本の高齢化社会の有り様に問いかけるモデル・ケースとして、さいたまゴールド・シアターは結成当時から注目を集め続けている。
- ✓ 現在団員は64歳から89歳までの39名。平均年齢76.7歳。（2015年11月現在）
- ✓ 団員募集時には1266名が応募し、15日間、延べ78時間に渡るオーディションを実施。
- ✓ 2014年11月から12月にかけてはパリ・香港を含む3ヵ国5都市を巡るツアー公演を実施。全5会場で8,000人以上の観客を動員。



公演の様子